学生による授業評価に基づいた授業改善への探索的研究（Ⅲ）
―― 過去3度のアンケートの縦断分析から（2003～2007）――

田　実　　潔
竹　原　卓　真
鈴　木　　剛
岩　本　一　郎
古　谷　次　郎

目　　次

Ⅰ．はじめに
Ⅱ．目　　的
Ⅲ．方　　法
Ⅳ．結　　果
Ⅴ．考　　察
Ⅵ．結　　語

Ⅰ．はじめに

2008年4月1日から新たに「大学設置基準の一部を改正する省令」が施行された。改正された大学設置基準では25条の三「大学は，当該大学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする」（傍点は筆者による）とより強調されるものとなり，学士課程においてもFDの義務化が明文化されたことになる。これに対して夏目(2008)は，FDの内容を精査するとともにFDの実施を促進する条件をいくつか列挙している。以下に引用しておく。①学内における教育・授業改善のための環境・雰囲気の醸成，②教員の授業スタイル・個人的資質に関する問題，③教員の教育能力に関する問題，④授業に対する教員の理解に関する問題，⑤学生との関係に関する問題，⑥勤務条件に関する問題，⑦研究との関係に関する問題，⑧FDプログラムの問題，等である。大学授業あるいは学生教育への言及が多くを占めており，大学教員の授業改善や教育内容検討は避けて通れない課題となっている。

省令に先駆けて文部科学省は高等教育局長名で通知を出し(2007)，「7教育内容等の改善のための組織的な研修等に関する事項　大学設置基準第25条の3の規定によるいわゆるファカルティ・ディベロップメント（FD）については，これまで努力義務であったものを義務化するものであるが，これは大学の各教員に対し義務付けるものではなく，各大学が組織的に実施することを義務付けるものであること。これを踏まえ，各大学においては，授業の内容及び方法の改善につながるような内容の伴った取組を行うことが望まれること。」とし，FDの義務化は教員個人ではなく大学義務としている。これに対して青野(2008)は，教員個人ではなく大学が組織として行う「授業の内容及び方法の改善」とは何かを問いつつ，「授業の内容及び方法の改善」の重要性を指摘し，学生による授業評価やカリキュラム評価を抜きには行えない，と学生授業評価の再検討を提言している。

また，中央教育審議会大学分科会制度・教

キーワード：FD・授業評価アンケート・授業改善

育部会は2008年3月25日付けで「学士課程教育の構築に向けて」(中間報告)をだし，大学教育改革ビジョンを示しているが，そこでは従来の「何を教えるか」から「何ができるようにするか」への学習成果重視とも言えるパラダイム・シフトの転換が見られている。この学習成果(ラーニングアウトカム)については，アメリカにおける高等教育機関の基準認定(Accreditation アクレディテーション)を行う団体(Ex.カレッジ・学校南部協会のカレッジ理事会・CCSACS)が設定している「質向上の企画書・Quality Enhancement Plan・QEP」では，ラーニングアウトカムはかなり重要視されてきている(QEP は日本の大学では自己評価報告書にあたる)(吉田 2009)。同様の研究に，アウトプット(アウトカム)指標を用いて，学生のラーニングアウトカムを測定する研究が多くなされているが，それらの研究でも言及されるのは，アウトプット(アウトカム)時つまり卒業以後の人生生活に大学時代の教育内容や質(インプット)がどのような成果をもたらしているか，を調べるものであり(松塚 2008)，その点でも大学授業の検討と改善は重要なものとなっている。

昨今の FD 研究では，学生参画を始めとする大学構成員全員による FD 共同体の成立を目指すとされている(林 2006，田中 2006)が，それは特別な共同体の成立を目指すのではなく絹川(2008)が説くように，「FD の日常性」つまり大学教員の日常的教育関連活動のレベル，なかんずく日々の授業活動レベルに出発点を置くものである。このように大学授業改善については，授業方法論を巡る議論として，知識伝達型・一斉授業型といった授業形態の枠組みの中で新しい授業の在り方を模索する必要性(溝上 2002)や学生の参加を促すにとどまらず学生と構築する授業の開発の必要性(岡部 2002)，教員の役割を教えることから学びの支援へとシフトチェンジし，学生の視点を持った教員である必要性(伊藤 2008)等の指摘がなされている。また，教師の資質論や教師論としての指摘では，久保ら(2008)は，TA(Teaching Award)賞受賞教員へのインタビューから優秀教員の資質を明らかにしており，私立大学情報教育協会(2008)は優れた授業を評価･顕彰する制度の導入や教員自身による教育諸能力の自己点検の必要性を指摘している。その他にも教員の授業スキルアップに関する原則論的な提示については，Davis(1993)や McKeachie(1999)，草　取(1995)，池田ら(2001)などがある。我が国における FD 研究のレビューとしては，飯吉(2007)，井下(2008)が詳しく分析しており参考にされたい。

このように，FD 研究の中でも授業改善に関わる研究は喫緊の課題となっているが，多くの大学で行っている学生による授業評価を授業改善に反映させていこうという試みはあまりなく，むしろ否定的な意見も多く(宇佐美 1999,2004)，松谷ら(2005)は，授業評価アンケートが授業改善の目的のために正しく機能しているか，授業評価によって授業の改善が促進されているのか，と疑問を呈している。同様に安岡(2007)も自らの一連の研究を踏まえた上で授業評価に関する研究をレビューし，やはり授業改善に結びついているものは少ない，と指摘している。また，田実･竹原(2008)も，学生による授業評価が授業改善にほとんど寄与していない事を指摘している。それに対して，田実(2008)，田実･竹原(2009)は，隔年で実施されている北星学園大学の学生による授業評価(2003年度と2005年度)の結果を統計的に分析比較し，授業評価そのものの妥当性を検討している。それによると，ほとんどすべての評価項目において，2005年度の学生評価は2003年度のそれよりも有意に高い評価となっていることが示され，学生による授業評価は教員の授業改善に何らかの好影響を与えていることが示されている。同時に学生評価の低かった授業と高かった授業が2005年度の学生評価において，評価がどのように

変化したかを明らかにしている。その結果，2003年度の低評価群は有意に2005年には高い評価を受けていたが，逆に高評価群は低い評価となっていた。2003年度に低評価を受けた授業科目担当者が一様に授業改善に取り組み，その結果2005年度の学生授業評価が上昇したと考えることができ，学生による授業評価が大学教員の授業改善に有効に寄与していることを示している。それに対して，高い授業評価を受けた教員にとっては油断と慢心を招く，と言えるかもしれない。しかし，この分析は全体を２分割した総体的な分析であり，授業改善がより期待されるであろう授業評価のより低い授業科目がどのような影響を受けているのか，は明らかにされていない。

Ⅱ．目　的

そこで，本研究では田実・竹原(2009)の分析データ(2003年度と2005年度)に新たに2007年度の学生授業評価データを加味し，授業評価の高低による授業改善への動機付けが形成されるのか否かを明らかにすることを目的として分析することとした。つまり，2003年度において学生評価の低かった授業と高かった授業が2005年度を経て2007年度の学生評価において，評価がどのように変化したかを明らかにする。従来北星学園大学で行われてきた授業評価アンケートが授業改善にどの程度寄与しているのか，また授業改善に直結する学生評価の作成に向けて新たな知見を得ることとする。

Ⅲ．方　法

2003年度と2005年度および2007年度に行われた学生による授業評価アンケート結果のうち，授業及び教授法（授業担当者）について(11項目)と授業参加（あなた自身）の状況について(２項目)の計13項目について，比較分析を行った。それぞれの項目は，そう思う－どちらかといえばそう思う－どちらともいえない－どちらかといえばそう思わない－そう思わない，の５件法で答える質問であり，それぞれ５点－４点－３点－２点－１点の評価得点を付加している。

2003年度の授業科目名と授業担当者を2005年度，2007年度と対応させ，一致しない授業については分析の対象からはずした(カリキュラム変更により授業名のみ変更になっている場合については，シラバスで授業内容の同一性を確認した)。2003年度の評価得点を基に，各質問ごとに評価得点の中央値より低い授業を低評価群，高い授業を高評価群と設定した。これらの低評価群と高評価群の評定平均値を比較した。分析に用いたソフトはWindows版SPSSであり，いずれも１要因３水準の分散分析により分析した。

１．分析Ⅰ

2003年度において低評価群(以下Low群)と高評価群(以下High群)に分類された授業科目（授業担当者）が2005年度を経て2007年度において授業評価に変化がみられるかどうか，つまり学生授業評価によって授業改善の傾向がみられるか，を検討する。

２．分析Ⅱ

高低の２分位分割から，４分位分割し下位25%にあたる下位Low群と評価の上位25%にあたる上位High群とを設定し，より詳細な傾向を分析し，今後の学生による授業評価を有機的に教員の授業改善に帰結させる為の方策について知見を得ることとする。

Ⅳ．結　果

分析Ⅰの結果を，Low群，High群のそれぞれ前期と後期ごとにTable1-1～1-4に，分析Ⅱの結果をⅠ同様Table2-1～2-4に示した。

Table1-1　2003，2005，2007のLow群前期　経年変化

Q01 授業は講義要項(シラバス)の趣旨と内容に沿って展開されましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	70	4.05	0.27	2, 207	8.07	.000	p<.001	2007, 2005 > 2003
2005	70	4.23	0.31					
2007	70	4.24	0.38					

Q02 授業の内容は興味・関心を持てるものでしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	70	3.62	0.46	2, 207	1.94	.146	n.s.	
2005	70	3.76	0.53					
2007	70	3.78	0.58					

Q03 授業の内容を理解できるように工夫されていましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	69	3.53	0.46	2, 204	3.61	.029	p<.05	2005 > 2003
2005	69	3.74	0.53					
2007	69	3.73	0.58					

Q04 授業担当者の熱意は感じられましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	71	4.00	0.34	2, 210	3.08	.048	p<.05	2007 > 2003
2005	71	4.12	0.40					
2007	71	4.15	0.38					

Q05 授業担当者の話し方は聴き取りやすかったですか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	70	3.69	0.50	2, 207	2.86	.060	n.s.	
2005	70	3.89	0.53					
2007	70	3.86	0.60					

Q06 板書やプロジェクタの文字（大きさや見やすさ）は適切でしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	71	3.72	0.47	2, 210	2.14	.120	n.s.	
2005	71	3.90	0.51					
2007	71	3.84	0.64					

Q07 教材（教科書・配布プリント・視聴覚教材）は適切でしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	70	3.88	0.30	2, 207	2.33	.100	n.s.	
2005	70	3.99	0.47					
2007	70	4.04	0.53					

Q08 授業の開始及び終了時刻は守られましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	71	4.18	0.36	2, 210	5.27	.006	p<.01	2007, 2005 > 2003
2005	71	4.33	0.37					
2007	71	4.38	0.42					

Q09 授業担当者は教室内の静粛な環境の維持に適切に対応しましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	70	4.00	0.34	2, 207	4.18	.017	p<.02	2007 > 2003
2005	70	4.15	0.40					
2007	70	4.20	0.52					

Q10 授業に関して質問する機会を与えられましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	70	3.74	0.34	2, 207	5.01	.008	p<.01	2007 > 2003
2005	70	3.89	0.46					
2007	70	3.97	0.50					

Q11 総合的に判断して、この授業は満足できるものでしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	70	3.66	0.44	2, 207	3.16	.044	p<.05	2005 > 2003
2005	70	3.85	0.50					
2007	70	3.84	0.54					

Q12 授業の出席状況は良かったですか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	69	4.21	0.22	2, 204	2.69	.070	n.s.	
2005	69	4.30	0.28					
2007	69	4.30	0.31					

Q13 授業への取り組みは意欲的でしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	69	3.73	0.26	2, 204	2.05	.131	n.s.	
2005	69	3.80	0.34					
2007	69	3.84	0.39					

Table1-2　2003，2005，2007の High 群前期　経年変化

Q01 授業は講義要項(ｼﾗﾊﾞｽ)の趣旨と内容に沿って展開されましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	69	4.59	0.17	2, 204	2.25	.109	n.s.	
2005	69	4.52	0.22					
2007	69	4.55	0.21					

Q02 授業の内容は興味･関心を持てるものでしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	69	4.54	0.20	2, 204	1.50	.226	n.s.	
2005	69	4.45	0.36					
2007	69	4.47	0.37					

Q03 授業の内容を理解できるように工夫されていましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	70	4.52	0.25	2, 207	2.04	.132	n.s.	
2005	70	4.41	0.36					
2007	70	4.46	0.34					

Q04 授業担当者の熱意は感じられましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	68	4.72	0.19	2, 201	2.82	.062	n.s.	
2005	68	4.62	0.28					
2007	68	4.67	0.25					

Q05 授業担当者の話し方は聴き取りやすかったですか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	69	4.61	0.20	2, 204	2.80	.063	n.s.	
2005	69	4.49	0.38					
2007	69	4.53	0.37					

Q06 板書やプロジェクタの文字（大きさや見やすさ）は適切でしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	68	4.55	0.21	2, 201	3.30	.039	p<.05	2003 > 2005
2005	68	4.42	0.33					
2007	68	4.47	0.31					

Q07 板書やプロジェクタの機器操作は適切でしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	69	4.54	0.18	2, 204	1.22	.299	n.s.	
2005	69	4.48	0.25					
2007	69	4.48	0.27					

Q08 授業の開始及び終了時刻は守られましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	68	4.72	0.11	2, 201	5.16	.007	p<.01	2003 > 2007
2005	68	4.64	0.20					
2007	68	4.60	0.28					

Q09 授業担当者は教室内の静粛な環境の維持に適切に対処しましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	69	4.62	0.16	2, 204	0.80	.450	n.s.	
2005	69	4.58	0.28					
2007	69	4.62	0.23					

Q10 授業に関して質問する機会を与えられましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	69	4.61	0.24	2, 204	1.55	.216	n.s.	
2005	69	4.51	0.38					
2007	69	4.56	0.39					

Q11 総合的に判断して、この授業は満足できるものでしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	69	4.57	0.21	2, 204	1.31	.271	n.s.	
2005	69	4.49	0.35					
2007	69	4.52	0.35					

Q12 授業の出席状況は良かったですか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	70	4.64	0.12	2, 207	6.00	.003	p<.01	2003 > 2007, 2005
2005	70	4.55	0.22					
2007	70	4.54	0.22					

Q13 授業への取り組みは意欲的でしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	70	4.37	0.19	2, 207	2.50	.084	n.s.	
2005	70	4.27	0.34					
2007	70	4.27	0.33					

Table1-3　2003，2005，2007のLow群後期　経年変化

Q01 授業は講義要項(ｼﾗﾊﾞｽ)の趣旨と内容に沿って展開されましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	99	4.03	0.28	2, 294	25.86	.000	p<.001	2007 > 2005 > 2003
2005	99	4.23	0.30					
2007	99	4.33	0.29					

Q02 授業の内容は興味・関心を持てるものでしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	99	3.64	0.40	2, 294	17.83	.000	p<.001	2007 > 2005 > 2003
2005	99	3.89	0.49					
2007	99	4.01	0.46					

Q03 授業の内容を理解できるように工夫されていましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	99	3.60	0.41	2, 294	14.39	.000	p<.001	2007, 2005 > 2003
2005	99	3.85	0.51					
2007	99	3.97	0.53					

Q04 授業担当者の熱意は感じられましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	99	3.96	0.32	2, 294	16.95	.000	p<.001	2007 > 2005 > 2003
2005	99	4.14	0.39					
2007	99	4.27	0.41					

Q05 授業担当者の話し方は聴き取りやすかったですか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	99	3.69	0.50	2, 294	11.11	.000	p<.001	2007, 2005 > 2003
2005	99	3.93	0.52					
2007	99	4.05	0.62					

Q06 板書やプロジェクタの文字（大きさや見やすさ）は適切でしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	99	3.71	0.41	2, 294	12.97	.000	p<.001	2007, 2005 > 2003
2005	99	3.93	0.47					
2007	99	4.03	0.49					

Q07 教材（教科書・配布プリント・視聴覚教材）は適切でしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	99	3.84	0.29	2, 294	17.68	.000	p<.001	2007, 2005 > 2003
2005	99	4.04	0.42					
2007	99	4.15	0.41					

Q08 授業の開始及び終了時刻は守られましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	99	4.08	0.33	2, 294	5.57	.004	p<.01	2007 > 2003
2005	99	4.19	0.55					
2007	99	4.28	0.41					

Q09 授業担当者は教室内の静粛な環境の維持に適切に対応しましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	99	4.06	0.32	2, 294	18.84	.000	p<.001	2007 > 2005 > 2003
2005	99	4.22	0.36					
2007	99	4.36	0.34					

Q10 授業に関して質問する機会を与えられましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	99	3.83	0.38	2, 294	16.96	.000	p<.001	2007 > 2005 > 2003
2005	99	4.03	0.48					
2007	99	4.18	0.44					

Q11 総合的に判断して、この授業は満足できるものでしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	99	3.67	0.39	2, 294	17.65	.000	p<.001	2007, 2005 > 2003
2005	99	3.94	0.51					
2007	99	4.07	0.53					

Q12 授業の出席状況は良かったですか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	99	3.98	0.26	2, 294	16.76	.000	p<.001	2007 > 2005 > 2003
2005	99	4.13	0.37					
2007	99	4.25	0.34					

Q13 授業への取り組みは意欲的でしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	105	3.66	0.27	2, 312	15.01	.000	p<.001	2007, 2005 > 2003
2005	105	3.85	0.40					
2007	105	3.92	0.38					

Table1-4　2003，2005，2007の High 群後期　経年変化

Q01 授業は講義要項(ｼﾗﾊﾞｽ)の趣旨と内容に沿って展開されましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	99	4.62	0.15	2, 294	1.97	.142	n.s.	
2005	99	4.56	0.24					
2007	99	4.60	0.22					

Q02 授業の内容は興味・関心を持てるものでしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	99	4.53	0.20	2, 294	1.3	.275	n.s.	
2005	99	4.47	0.33					
2007	99	4.54	0.34					

Q03 授業の内容を理解できるように工夫されていましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	99	4.53	0.20	2, 294	1.01	.367	n.s.	
2005	99	4.50	0.34					
2007	99	4.56	0.32					

Q04 授業担当者の熱意は感じられましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	99	4.71	0.17	2, 294	2.73	.067	n.s.	
2005	99	4.66	0.26					
2007	99	4.73	0.25					

Q05 授業担当者の話し方は聞き取りやすかったですか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	99	4.66	0.18	2, 294	1.41	.245	n.s.	
2005	99	4.60	0.30					
2007	99	4.65	0.29					

Q06 板書やプロジェクタの文字（大きさや見やすさ）は適切でしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	99	4.54	0.17	2, 294	1.66	.193	n.s.	
2005	99	4.50	0.28					
2007	99	4.56	0.34					

Q07 教材（教科書・配布プリント・視聴覚教材）は適切でしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	99	4.53	0.16	2, 294	5.05	.007	p<.01	2007 > 2005
2005	99	4.46	0.28					
2007	99	4.57	0.26					

Q08 授業の開始及び終了時刻は守られましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	99	4.67	0.14	2, 294	2.76	.065	n.s.	
2005	99	4.59	0.30					
2007	99	4.63	0.26					

Q09 授業担当者は教室内の静粛な環境の維持に適切に対応しましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	99	4.65	0.15	2, 294	3.06	.048	p<.05	2003 > 2005
2005	99	4.58	0.23					
2007	99	4.64	0.25					

Q10 授業に関して質問する機会を与えられましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	99	4.68	0.17	2, 294	2.09	.125	n.s	
2005	99	4.63	0.23					
2007	99	4.69	0.24					

Q11 総合的に判断して、この授業は満足できるものでしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	99	4.59	0.18	2, 294	2.62	.075	n.s.	
2005	99	4.51	0.33					
2007	99	4.59	0.32					

Q12 授業の出席状況は良かったですか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	99	4.51	0.15	2, 294	9.18	.000	p<.001	2003 > 2005
2005	99	4.34	0.34					
2007	99	4.43	0.32					

Q13 授業への取り組みは意欲的でしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	93	4.34	0.22	2, 276	8.54	.000	p<.001	2003, 2007 > 2005
2005	93	4.20	0.33					
2007	93	4.36	0.30					

Table2-1　2003，2005，2007の下位 Low 群前期　経年変化

Q01 授業は講義要項(ｼﾗﾊﾞｽ)の趣旨と内容に沿って展開されましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	35	3.83	0.23	2, 102	8.33	.000	p<.001	2007, 2005 > 2003
2005	35	4.09	0.29					
2007	35	4.12	0.43					

Q02 授業の内容は興味・関心を持てるものでしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	34	3.22	0.33	2, 99	2.33	.103	n.s.	
2005	34	3.45	0.51					
2007	34	3.41	0.55					

Q03 授業の内容を理解できるように工夫されていましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	35	3.17	0.37	2, 102	4.75	.011	p<.02	2005 > 2003
2005	35	3.54	0.55					
2007	35	3.44	0.59					

Q04 授業担当者の熱意は感じられましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	34	3.73	0.29	2, 99	3.87	.024	p<.05	2007, 2005 > 2003
2005	34	3.94	0.44					
2007	34	3.94	0.32					

Q05 授業担当者の話し方は聴き取りやすかったですか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	35	3.31	0.45	2, 102	5.91	.004	p<.01	2005 > 2003
2005	35	3.76	0.52					
2007	35	3.61	0.66					

Q06 板書やプロジェクタの文字（大きさや見やすさ）は適切でしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	34	3.34	0.42	2, 99	3.93	.023	p<.05	2005 > 2003
2005	34	3.73	0.50					
2007	34	3.55	0.73					

Q07 教材（教科書・配布プリント・視聴覚教材）は適切でしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	34	3.64	0.24	2, 99	1.18	.312	n.s.	
2005	34	3.78	0.46					
2007	34	3.75	0.49					

Q08 授業の開始及び終了時刻は守られましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	34	3.90	0.35	2, 99	5.48	.006	p<.01	2007, 2005 > 2003
2005	34	4.16	0.39					
2007	34	4.21	0.48					

Q09 授業担当者は教室内の静粛な環境の維持に適切に対応しましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	35	3.75	0.31	2, 102	4.42	.014	p<.02	2007, 2005 > 2003
2005	35	4.01	0.42					
2007	35	4.02	0.54					

Q10 授業に関して質問する機会を与えられましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	34	3.45	0.23	2, 99	4.57	.013	p<.02	2007 > 2003
2005	34	3.65	0.41					
2007	34	3.73	0.52					

Q11 総合的に判断して、この授業は満足できるものでしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	34	3.29	0.31	2, 99	3.98	.022	p<.05	2005 > 2003
2005	34	3.60	0.53					
2007	34	3.52	0.56					

Q12 授業の出席状況は良かったですか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	35	4.05	0.20	2, 102	3.77	.026	p<.05	2007 > 2003
2005	35	4.22	0.32					
2007	35	4.22	0.36					

Q13 授業への取り組みは意欲的でしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	35	3.53	0.22	2, 102	2.25	.111	n.s.	
2005	35	3.63	0.31					
2007	35	3.68	0.36					

Table2-2　2003，2005，2007の上位 High 群前期　経年変化

Q01 授業は講義要項(ｼﾗﾊﾞｽ)の趣旨と内容に沿って展開されましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	36	4.71	0.15	2, 105	6.61	.002	p<.01	2003＞2005, 2007
2005	36	4.56	0.22					
2007	36	4.59	0.21					

Q02 授業の内容は興味・関心を持てるものでしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	39	4.68	0.15	2, 114	2.41	.094	n.s.	
2005	39	4.54	0.36					
2007	39	4.56	0.33					

Q03 授業の内容を理解できるように工夫されていましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	35	4.72	0.16	2, 102	3.46	.035	p<.05	2003＞2007
2005	35	4.58	0.33					
2007	35	4.57	0.30					

Q04 授業担当者の熱意は感じられましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	34	4.88	0.09	2, 99	4.56	.013	p<.02	2003＞2005, 2007
2005	34	4.76	0.23					
2007	34	4.75	0.24					

Q05 授業担当者の話し方は聴き取りやすかったですか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	35	4.78	0.10	2, 102	2.25	.111	n.s.	
2005	35	4.68	0.30					
2007	35	4.65	0.37					

Q06 板書やプロジェクタの文字（大きさや見やすさ）は適切でしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	39	4.69	0.16	2, 114	6.54	.002	p<.01	2003＞2005, 2007
2005	39	4.48	0.31					
2007	39	4.53	0.28					

Q07 教材（教科書・配布プリント・視聴覚教材）は適切でしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	36	4.67	0.12	2, 105	3.84	.024	p<.05	2003＞2005
2005	36	4.53	0.28					
2007	36	4.56	0.25					

Q08 授業の開始及び終了時刻は守られましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	34	4.81	0.08	2, 99	4.55	.013	p<.02	2003＞2007
2005	34	4.73	0.18					
2007	34	4.70	0.17					

Q09 授業担当者は教室内の静粛な環境の維持に適切に対応しましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	35	4.75	0.11	2, 102	3.57	.032	p<.05	2003＞2005
2005	35	4.65	0.20					
2007	35	4.66	0.21					

Q10 授業に関して質問する機会を与えられましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	36	4.80	0.12	2, 105	1.69	.189	n.s.	
2005	36	4.72	0.28					
2007	36	4.70	0.27					

Q11 総合的に判断して、この授業は満足できるものでしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	35	4.74	0.15	2, 102	2.45	.091	n.s.	
2005	35	4.60	0.33					
2007	35	4.62	0.31					

Q12 授業の出席状況は良かったですか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	35	4.73	0.09	2, 102	6.30	.003	p<.01	2003＞2005, 2007
2005	35	4.63	0.19					
2007	35	4.59	0.23					

Q13 授業への取り組みは意欲的でしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	34	4.53	0.12	2, 99	3.99	.021	p<.05	2003＞2005
2005	34	4.36	0.34					
2007	34	4.42	0.25					

Table2-3　2003，2005，2007の下位 Low 群後期　経年変化

Q01 授業は講義要項(ｼﾗﾊﾞｽ)の趣旨と内容に沿って展開されましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	50	3.82	0.25	2, 147	30.67	.000	p<.001	2007, 2005 > 2003
2005	50	4.14	0.32					
2007	50	4.26	0.29					

Q02 授業の内容は興味・関心を持てるものでしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	49	3.30	0.28	2, 144	29.65	.000	p<.001	2007 > 2005 > 2003
2005	49	3.65	0.46					
2007	49	3.92	0.42					

Q03 授業の内容を理解できるように工夫されていましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	49	3.27	0.30	2, 144	17.41	.000	p<.001	2007, 2005 > 2003
2005	49	3.63	0.50					
2007	49	3.78	0.50					

Q04 授業担当者の熱意は感じられましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	53	3.72	0.24	2, 156	17.41	.000	p<.001	2007, 2005 > 2003
2005	53	3.98	0.38					
2007	53	4.11	0.40					

Q05 授業担当者の話し方は聴き取りやすかったですか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	49	3.29	0.40	2, 144	10.71	.000	p<.001	2007, 2005 > 2003
2005	49	3.65	0.50					
2007	49	3.75	0.64					

Q06 板書やプロジェクタの文字（大きさや見やすさ）は適切でしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	49	3.38	0.35	2, 144	11.74	.000	p<.001	2007, 2005 > 2003
2005	49	3.67	0.45					
2007	49	3.79	0.48					

Q07 教材（教科書・配布プリント・視聴覚教材）は適切でしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	49	3.61	0.24	2, 144	14.70	.000	p<.001	2007, 2005 > 2003
2005	49	3.88	0.44					
2007	49	4.02	0.42					

Q08 授業の開始及び終了時刻は守られましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	49	3.83	0.30	2, 144	5.66	.004	p<.01	2007 > 2003
2005	49	4.05	0.61					
2007	49	4.15	0.49					

Q09 授業担当者は教室内の静粛な環境の維持に適切に対処しましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	49	3.81	0.28	2, 144	22.72	.000	p<.001	2007 > 2005 > 2003
2005	49	4.10	0.35					
2007	49	4.26	0.37					

Q10 授業に関して質問する機会を与えられましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	49	3.52	0.26	2, 144	20.45	.000	p<.001	2007 > 2005 > 2003
2005	49	3.77	0.39					
2007	49	3.96	0.38					

Q11 総合的に判断して、この授業は満足できるものでしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	49	3.35	0.27	2, 144	21.03	.000	p<.001	2007, 2005 > 2003
2005	49	3.70	0.47					
2007	49	3.88	0.47					

Q12 授業の出席状況は良かったですか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	49	3.77	0.21	2, 144	18.96	.000	p<.001	2007, 2005 > 2003
2005	49	4.10	0.41					
2007	49	4.19	0.40					

Q13 授業への取り組みは意欲的でしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	49	3.41	0.16	2, 144	16.43	.000	p<.001	2007, 2005 > 2003
2005	49	3.68	0.39					
2007	49	3.78	0.38					

Table2-4　2003，2005，2007の上位 High 群後期　経年変化

Q01 授業は講義要項シラバスの趣旨と内容に沿って展開されましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	49	4.75	0.09	2, 144	5.58	.005	p<.01	2003＞2007, 2005
2005	49	4.64	0.22					
2007	49	4.65	0.19					

Q02 授業の内容は興味・関心を持てるものでしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	49	4.70	0.11	2, 144	1.53	.221	n.s.	
2005	49	4.62	0.29					
2007	49	4.65	0.26					

Q03 授業の内容を理解できるように工夫されていましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	48	4.71	0.12	2, 141	1.46	.236	n.s.	
2005	48	4.63	0.27					
2007	48	4.69	0.23					

Q04 授業担当者の熱意は感じられましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	49	4.86	0.08	2, 144	4.45	.013	p<.02	2003＞2005
2005	49	4.74	0.26					
2007	49	4.79	0.24					

Q05 授業担当者の話し方は聴き取りやすかったですか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	47	4.81	0.09	2, 138	4.14	.018	p<.02	2003＞2005
2005	47	4.69	0.25					
2007	47	4.72	0.26					

Q06 板書やプロジェクタの文字（大きさや見やすさ）は適切でしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	49	4.68	0.09	2, 144	4.39	.014	p<.02	2003＞2005
2005	49	4.58	0.21					
2007	49	4.67	0.20					

Q07 教材（教科書・配布プリント・視聴覚教材）は適切でしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	48	4.67	0.09	2, 141	6.31	.002	p<.01	2007, 2003＞2005
2005	48	4.54	0.21					
2007	48	4.65	0.23					

Q08 授業の開始及び終了時刻は守られましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	44	4.80	0.08	2,. 129	7.84	.001	p<.01	2003＞2005
2005	44	4.60	0.37					
2007	44	4.68	0.19					

Q09 授業担当者は教室内の静粛な環境の維持に適切に対応しましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	47	4.78	0.08	2, 138	10.12	.000	p<.001	2003＞2007, 2005
2005	47	4.62	0.22					
2007	47	4.69	0.19					

Q10 授業に関して質問する機会を与えられましたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	48	4.82	0.10	2, 141	2.95	.055	n.s.	
2005	48	4.73	0.21					
2007	48	4.76	0.22					

Q11 総合的に判断して、この授業は満足できるものでしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	49	4.74	0.09	2, 144	2.05	.132	n.s.	
2005	49	4.65	0.27					
2007	49	4.71	0.24					

Q12 授業の出席状況は良かったですか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	49	4.64	0.11	2, 144	5.74	.004	p<.01	2003＞2007, 2005
2005	49	4.47	0.32					
2007	49	4.46	0.37					

Q13 授業への取り組みは意欲的でしたか？

年度	データ数	平均値	標準偏差	自由度	F値	有意確率	p	下位検定
2003	49	4.51	0.16	2, 144	8.75	.000	p<.001	2003＞2005
2005	49	4.29	0.35					
2007	49	4.41	0.27					

1．2003, 2005, 2007年度におけるLow群の変化

Table1-1に前期科目についての分析結果を，Table1-3に後期科目の評価結果を示した。前期科目を比較した結果では，Q1「授業はシラバスの趣旨と内容に沿って展開されましたか」とQ3「授業の内容を理解できるように工夫されていましたか」，Q4「授業担当者の熱意は感じられましたか」，Q8「授業の開始および終了時刻は守られましたか」，Q9「授業担当者は教室内の静粛な環境の維持に適切に対応しましたか」，Q10「授業に関して質問する機会を与えられましたか」，Q11「総合的に判断して，この授業は満足できるものでしたか」のそれぞれの質問項目で，2005年度もしくは2007年度あるいは2005と2007年度の評価が2003年度の評価よりも有意に高くなっていた。後期科目についても同様の傾向が見られ，Table1-3に示したように全ての質問項目で有意に評価得点が高くなっていた。

2．2003，2005，2007年度における High 群の変化

Table1-2に前期科目についての分析結果を，Table1-4に後期科目の評価結果を示した。前期，後期ともにLow群とは逆に評価得点が低くなる傾向が見られた。前期ではQ6「板書やプロジェクタの文字（大きさや見やすさ）は適切でしたか」，Q8「授業の開始および終了時刻は守られましたか」，Q12「授業の出席状況は良かったですか」の質問項目で，2005年度もしくは2007年度あるいは2005と2007年度の評価が2003年度の評価よりも有意に低くなっていた。後期ではQ7「教材(教科書･配布プリント･視聴覚教材)は適切でしたか」，Q9「授業担当者は教室内の静粛な環境の維持に適切に対応しましたか」，Q12「授業の出席状況は良かったですか」，Q13「授業への取り組みは意欲的でしたか」において2005年度もしくは2007年度あるいは2005と2007年度の評価が2003年度の評価よりも有意に低くなっていた。

3．2003，2005，2007年度における下位 Low 群の変化

Low群のうちより低評価であった下位50%群(全体の下位25%群)である下位Low群の前期科目の分析結果をTable2-1に，同じく後期科目の結果をTable2-3に示した。前期ではQ2「授業の内容は興味･関心が持てるものでしたか」,Q7「教材(教科書･配布プリント･視聴覚教材)は適切でしたか」,Q13「授業への取り組みは意欲的でしたか」をのぞく質問項目で，後期ではすべての質問項目において，2005年度もしくは2007年度あるいは2005と2007年度の評価が2003年度の評価よりも有意に高くなっていた。

4．2003，2005，2007年度における上位 High 群の変化

High群についても同様上位High群の前期科目の分析結果をTable2-2に，後期科目の分析結果をTable2-4に示した。前期においてはQ2「授業の内容は興味･関心が持てるものでしたか」,Q5「授業担当者の話し方は聞き取りやすかったですか」,Q10「授業に関して質問する機会を与えられましたか」，Q11「総合的に判断して，この授業は満足できるものでしたか」をのぞく質問項目で，後期ではQ2「授業の内容は興味･関心が持てるものでしたか」,Q3「授業の内容を理解できるように工夫されていましたか」,Q10「授業に関して質問する機会を与えられましたか」，Q11「総合的に判断して，この授業は満足できるものでしたか」をのぞく質問項目において有意に2005年度もしくは2007年度あるいは2005と2007年度の評価が2003年度の評価よりも有意に低くなっていた。

V．考　察

田実･竹原(2009)は，2003年度と2005年度の分析比較から，2003年度に低評価を受けた

授業科目担当者が一様に授業改善に取り組み，その結果2005年度の学生授業評価が上昇したと考えることができることを示している。2007年度データを加味してあらたな分析を行った本研究でもほぼ同一の傾向が示されている。

分析ⅠによるLow群とHigh群との比較では，Low群では，明らかな授業改善効果が示されており，学生授業評価による効果が認められる。一方High群では，平均値が元々高く，すでに天井効果を持っていて上昇しにくい状態になっていると考えられる。その上で平均値の下落がほとんど見られなかったことからHigh群は継続して高水準を維持しており，学生評価の影響を判断しにくいと考えられる。このことから，本学で行っている学生による授業評価は，低い授業評価を受けた教員にとっては授業改善へのモチベーションとなり，実際に授業が改善されることに対して，高い授業評価を受けた教員にとっては油断と慢心を招く，と言えるかもしれない(田実・竹原 2009)。下位Low群と上位High群との比較分析を行った分析Ⅱでは，分析Ⅰと同様，下位Low群の評価改善傾向と上位High群の低評価化が示されている。下位Low群については，授業評価項目に見られる観点では授業改善が見られており，授業評価の効用は確認された。上位High群の分析結果では，評価が下がっているように思われるが，詳細に見てみると，Q11「総合的に判断して，この授業は満足できるものでしたか」の質問項目では2003年度から2005年度，2007年度の経年的有意変化がみられない。授業技術などの他の質問項目においては差がみられたものの，総合的な満足感においては高い水準を維持しており，田実・竹原(2009)が指摘した油断と慢心の結果による低評価化とは一概に言えないであろうが，上位High群の授業改善に直接影響を与える評価項目にはなり得ていない。松本・塚本(2004)は，授業評価の目標を「総合満足」の評価を高めること，と明確に述べており，その点では本学の学生授業評価が教員の授業改善に及ぼした影響は正しく認識されるべきであろうが，評価項目の検討は引き続きの課題となるであろう。

しかしながら，学生による授業評価の結果から授業改善を行った研究報告はほとんどなく掘(1997)に見られる程度であるが，これも堀の個人レベルでの改善報告であり，他の大学教員への一般化は難しい。安岡(2007)も多様な心理統計分析を駆使して学生の授業評価を分析し，授業評価の因子(観点)を示しているが，授業改善に直接結びつく普遍化した授業評価研究は圧倒的に少ないと述べている。授業評価そのものの改善研究としては，実施時期の検討を行った藤田(2005)や，授業を学生との相互関係から成立すると位置づけた上で学生の心理的特性を加味した田中・藤田(2003)，学生自身による自己学習成果の評価や教員と学生の相互関係を問う評価項目を加えた調査票を作成した澤田(2008)らがある。今後の授業評価を考える時に充分参考になると思われるが，授業評価のみを研究の焦点とすることには限界があると思われる。

井下(2008)が指摘するように，今後の授業評価研究の方向性としては，SD(Staff Development)の観点から，授業についても教員や教員集団の持っている意識研究と同時に学生や学生集団がどのような意識を持っているかという問題意識，さらには大学職員や保護者をも対象にした授業意識等の調査研究が志向されなければならない。このように大学の教育機能を支える人的要因つまり大学授業を構成しているすべてのFactor(学生，教員，職員)を対象にした研究が行われなければならないであろう。大塚(2009)が提唱するように，大学を学問学習共同体と見立て全教員が一律に同じような参画をするのではなく，それぞれの教員の持つ独自性の総体として組織的まとまりを構成することが求められており，そのような組織体としての授業評価が今後の課

題となるであろう。

Ⅵ. 結　語（今後の課題）

本研究では，2003年度と2005年度の授業評価に新たに2007年度のデータを加えてLow群や下位Low群，High群，上位High群の比較検討を行った。授業評価がLow群や下位Low群の授業改善には一定の効果をもたらしていることが確認されたが，High群特に上位High群にとっては天井効果もあり，授業改善に結びつく授業評価になり得ていないことも同様に再認識された。授業改善に結びつく授業評価項目の策定は引き続きの課題であるが，今後は昨今のFD研究の傾向を踏まえて，大学授業を教員や学生のみならず職員や保護者も含めた共同体としての組織としてとらえ直し，あらたな観点での評価項目策定が必要になるであろう。本学では相互授業参観も行われているが，その際にも授業参観の観点等を授業改善へ寄与するという視点から新たな授業評価項目を提示してくことも同時に求められているであろう。そのために大学授業に対するそれぞれの立場からの意識を明確にし，基礎資料とする必要があろう。

いずれにしても学生による授業評価を形骸化させず，労力（時間，費用等）に応じた効率のあがるものとするため研究を進めていきたい。

本研究は北星学園大学2008年～2009年のプロジェクト研究の補助を受けており，2008年（１年目）の研究成果発表です。感謝とともに報告致します。また，本研究は教職部門FD研究を兼ねており，学会資料等は教職部門FD予算において学会出張し，収集したものであることを付記しておきます。

文献

文部科学省大学設置基準等の一部を改正する省令等の施行について(2007)：文部科学省高等教育局長通知(文化高第281号，平成19年７月31日

夏目達也(2008)：FD実施義務化が提起しているもの－諸外国との比較による若干の知見－．大学教育学会2008年度課題研究集会要旨集，38-39.

青野透(2008)：大学設置基準における「授業の内容及び方法の改善」が意味するもの．第11回日本高等教育学会Ⅱ－７部会，120-121.

中央教育審議会大学分科会制度・教育部会(2008)：学士課程教育の構築に向けて(審議のまとめ)，平成20年３月25日

吉田武大(2009)：アメリカにおけるラーニングアウトカム評価の現状と課題－アクレディテーション団体CCSACS下の「Quality Enhancement Plan」を中心に－．第31回大学教育学会大会発表要旨収録，110-111.

松塚ゆかり(2008)：履修パスウェイとアウトプット指標で測る教育の成果．第30回大学教育学会大会発表要旨収録，112-113.

林哲介(2006)：学生参加を機動力とするFD組織化－大学教育のあるべき姿を求めて－．第12回大学教育研究フォーラム発表論文集，20-21.

田中毎美(2006)：FDの新たなトレンドと課題．第12回大学教育研究フォーラム発表論文集，22-23.

絹川正吉(2008)：FDの今後の課題－ダイナミックス研究からの提言－.大学教育学会2008年度課題研究集会要旨集，42-43.

溝上慎一(2002)：学生の理解の枠組みをふまえた授業展開．京都大学高等教育教授システム開発センター編，大学授業研究の構想，57-86.

岡部美香(2005)：大学授業研究のこれから－意味生成的な知の継承の場としての大学授業をめざして－．第27回大学教育学会発表論文集シンポジウムⅠ，25-26.

伊藤秀子(2008)：教師と学生の主体的参加による授業改善－15年間の総括と展望－．第14回大学教育研究フォーラム発表論文集，104-105.

久保延恵･安岡高志(2008)：優秀教員(Teaching Award受賞者)の共通点について．第30回大学教育学会大会発表要旨収録，116-117.

社団法人私立大学情報教育協会(2008)：私立大学教員の授業改善白書.

Davis, B.(1993) : Tools for Teaching.

Jossey-Bass. 香取草之助監訳(2002)，授業の道具箱．東海大学出版会.
McKeachie，W.(1999)： McKeachie's Teaching Tips ： Strateries, Research, and Theory for College and University Teachers. Houghton Mifflin Company.
香取草之助監訳(1995)：授業をどうする！－カリフォルニア大学バークレー校の授業改善のためのアイディア集．東海大学出版会.
池田輝正･戸田山和久･近田政博･中井俊樹(2001)：成長するティップス先生－授業デザインのための秘訣集．玉川大学出版部.
飯吉弘子(2007)：文献探訪大学教育論・FD 関連文献．大学教育,Vol.4(1),91-94.大阪市立大学大学教育研究センター
井下理(2008)：大学教育研究フォーラムにおける FD 研究報告の動向．京都大学高等教育研究 Vol.14,87-104.
宇佐美寛(1999)：大学の授業．東信堂，166-176.
宇佐美寛(2004)：第 6 章学生による授業評価の概念分析．大学授業の病理-FD 批判-．東信堂,109-146.
松谷満･平井松牛･佐竹昌之･桑折範彦(2005)：全学共通教育の現状と課題－学生による授業評価アンケート調査の分析から－．大学教育研究ジャーナル，Vol.2,13-25.
安岡高志(2007)：学生による授業評価の進展を探る．京都大学高等教育研究 Vol13,73-87.
田実潔･竹原卓真(2008)：学生による授業評価に基づいた授業改善への探索的研究－学生が望む授業づくりに向けて－．北星学園大学社会福祉学部論集，vol.45，37-43.
田実潔(2008)：学生による授業評価と授業改善－学生評価の再分析から－．第30回大学教育学会発表論文集，106-107.
田実潔･竹原卓真(2009)：学生による授業評価に基づいた授業改善への探索的研究(Ⅱ)－学生が望む授業づくりに向けた授業評価アンケートの分析から－．北星学園大学社会福祉学部論集，vol.46，65-72.
松本幸正・塚本弥八郎(2004)：CS 分析の考え方を導入した授業評価アンケートの分析と授業改善ポイントの定量化．京都大学高等教育研究 Vol.10,21-32.
堀喜久子(1997)：「学生による授業評価」に基づいた授業の検討．大学教育学会誌，Vol.19(2),80-85.
藤田哲也(2005)：授業評価に対する心理学的アプローチ．名古屋高等教育研究，Vol.5，257-280.
田中あゆみ･藤田哲也(2003)：大学生の達成目標と授業評価，学業遂行の関連．日本教育工学会論文誌，vol.27 (4)，397-403.
澤田忠幸(2008)：学生の自己学習評価としての総括的授業評価の活用．第14回大学教育研究フォーラム，94-95.
大塚雄作(2009)：大学教員のライフサイクルと学問学習共同体への参画．大学教育学会発表要旨集,シンポジウムⅡ,28-29.

[Abstract]

Explanatory Research about Lecture Improvement at Hokusei Gakuen University by Way of Student Evaluations of Lectures Ⅲ

Kiyoshi TAJITSU
Takuma TAKEHARA
Tsuyoshi SUZUKI
Ichiro IWAMOTO
Jiro FURUYA

Just as last year, we continued to conduct a general evaluation and verification of university teaching effectiveness. On adding new data of 2007, this study will evaluate academic improvement in teaching through re-analysis of student evaluations. Especially, we analyzed how low-classified groups 2003(25%) and high-classified groups 2005(25%) were evaluated in 2005 and in 2007. We made analysis of variance (1×3 factor) on each group and compared them. As a result, low-classified group was evaluated significantly better in 2007. On the other hand, in some items, high-classified groups evaluated low in 2007. Concerning Q11 "Overall, are you satisfied with this class?" however, the score on this item remains unchanged. In conclusion, it seems that low-evaluated university teachers made an effort to improve their lectures and that the lecture evaluations by students were effective in the lecture improvement.

However, as regards the element of high-classified groups, it is necessary to consider the limit of its effectivness. So, we must reconsider and examine the new assessment item by adding the factor of students's participation and attitude to the lecture and teacher-student interactive relationship.

Key words: FD(Faculty Development), Lecture Evaluation Questionnaire, Lecture Improvement